

MF-Tokyo 2015 学会テクニカルセミナー・ 大学研究室発表会 見どころ

一般社団法人日本塑性加工学会 柳本 潤 産学連携委員長
(東京大学生産技術研究所 教授)

7月15～18日のMF-Tokyo 2015会期中は企業および大学で最先端の研究に携わる技術者、研究者などが成果発表を行う「学会テクニカルセミナー」や塑性加工を研究テーマとする関東近郊の大学研究室による「大学研究室発表会」が開催される。内容や見どころを一般社団法人日本塑性加工学会の柳本潤産学連携委員長が紹介する。

塑性加工メーカーによる航空機部品加工や設備開発の取組みに注目

「学会テクニカルセミナー」は、日本塑性加工学会・産学連携委員会が中心となって企画した2014年度の日本塑性加工学会技術開発賞の受賞企業による講演やサーボプレス、ホットスタンピング、シミュレーション、といった旬の話題、さらに、ばね工業会、ねじ工業協会、レーザ加工学会が企画したファイバーレーザ、溶接などの重要な要素技術をテーマとしたセミナーを30件行います。どの日に来場しても、技術開発賞の講演、大学の研究内容、特別協賛や協賛団体のセミナーが開催されており、自社に関連する話題を聴講できるように配慮しました。展示会の内容やシンポジウムと合わせれば最新技術動向や研究内容を知ることができるでしょう。

特に、16日14時50分からの吉増製作所（東京都あきる野市）による「チタン合金航空機部品の通電加熱ホットスタンピング法の開発」は塑性加工業界として注目の航空機産業がテーマとなる講演です。また18日11時30分からは太陽工業（長野県諏訪市）が「扇型指示ロッドを用いた新機構2ポイントサーボプレスの開発」の講演を行います。中小塑性加工メーカーによる独自のプレス機械の開発や製品精度追及の取り組みは大いに参考になると思います。

また、「大学研究室発表会」は関東近郊の大学の24の研究室が日頃の研究の取り組みを発表します。発表はそれぞれの研究室につき1回限りで

すが、会期中は終日、ブースを設けていますので、学生や若手の大学教員がどのようなことをやっているのか、何ができるのかをぜひのぞいてみてください。

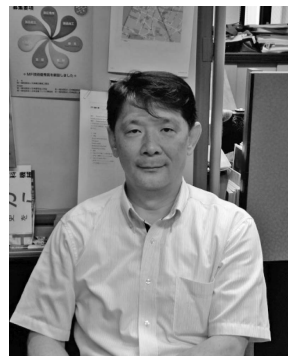
私が注目する研究室を2つ紹介します。

1つ目は首都大学東京の真鍋・古島研究室です。古島剛助教が「医療用超微細部品の創製から自動車の軽量化までを網羅する先進塑性加工技術の紹介」と題した発表を16日11時から行います。医療用部品や自動車の軽量化は塑性加工メーカーの真価が問われます。聴講することで市場開拓や自社の加工技術へのヒントになるかもしれません。

また、神奈川大学笹田研究室の笹田昌弘准教授は「せん断加工の高度化に関する研究」と題した発表を18日13時20分から行います。シンプルなテーマですが、塑性加工の重要な基本技術の1つです。改めてせん断加工を考えるのも良いでしょう。2人とも若い研究者です。塑性加工の研究がどのように若い教員に伝承されているのかもぜひ知ってほしいと思います。

大学の研究室の役割は、産業界のニーズをくみ取って、自分たちの研究テーマに結びつけて、産業界に還元することが理想だと考えています。こうしたサイクルを維持し、日本の鍛圧機械、塑性加工技術に貢献していければと思います。

学会テクニカルセミナーにおける、産業界に役立つ研究成果の発信を通して、塑性加工メーカーの方がニーズやシーズを得る機会にいただければ幸いです。



日本塑性加工学会
柳本 潤 産学連携委員長